

～実践記録～

1. 学校名：文化学園長野中学校

2. 対象：中学生徒会（全校・71名）

3. 活動内容

（1）活動名：「4つのR」プロジェクト

（2）活動の目標

- ・環境4つのR（Reduce, Recycle, Reuse, Refuse）に基づいたプラスチックごみ削減案を提案し、川の源流地域から海をきれいにする。
- ・生徒が主体的に活動を行い、生徒会執行部が全校を束ねて、PDCAを回す。

（3）ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 多様性（多種多様な現象が起きていること） | <input checked="" type="checkbox"/> 公平性（一人ひとりを大切に） |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性（関わりあっている） | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性（互いに連携・協力すること） |
| <input checked="" type="checkbox"/> 有限性（限りがある） | <input checked="" type="checkbox"/> 責任制（責任を持って） |
| <input type="checkbox"/> その他（ ） | |

②育成する資質・能力

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 | <input checked="" type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 | |

（4）関連するSDGs

11. 住み続けられるまちづくりを、12. つくる責任 つかう責任、13. 気候変動に具体的な対策を、14. 海の豊かさを守ろう、15. 陸の豊かさを守ろう、17. パートナリーシップで目標を達成しよう



（5）活動の内容

昨年度、中学では海洋プラスチックごみ問題を取り上げ、その原因を取り除くべく「脱レジ袋」を目標に「環境4つのR」を実践し、新聞紙でエコバッグづくりをはじめ、イベントで配布した。

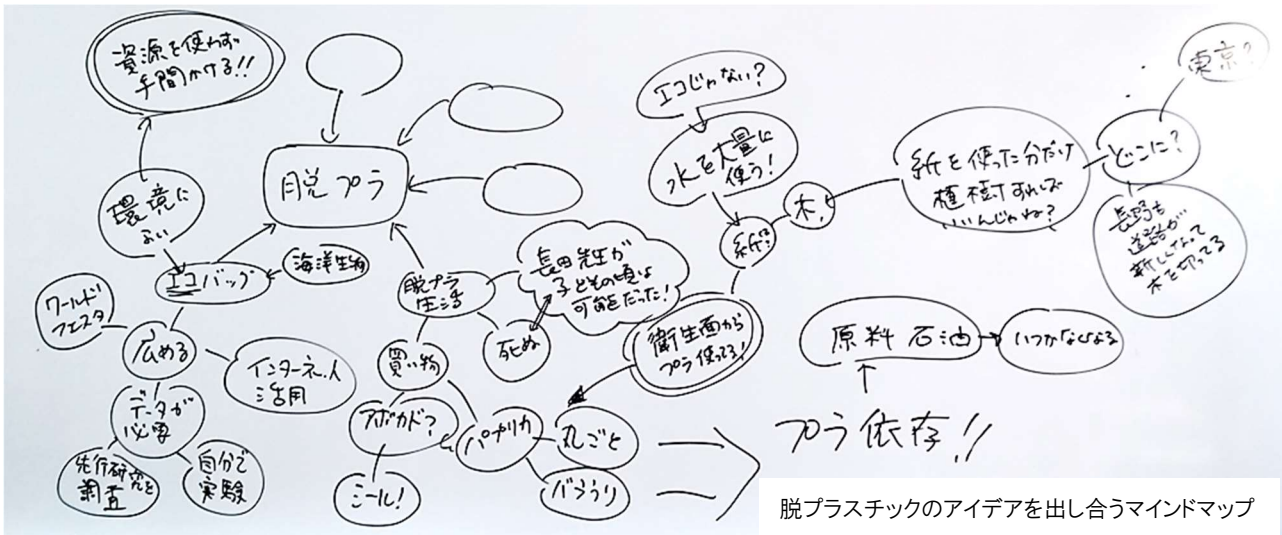
「新聞紙だってゴミになるからエコじゃない」という市民の声に、どう答えていくのか。まずは、本校の中でもう一度「プラゴミ削減」の目的を見つめ直すために、マインドマップを作成しながら考えた。

検討の結果、丈夫なりサイクル素材で「エコバッグの寿命を延ばし、廃棄までの時間を長くする」ことを考えた。様々な素材を検討する中、たどり着いたものの一つが、「点字」を打つ紙。日常的に点字用紙を使う長野盲学校へと連絡をしたところ、先方でもプラゴミ削減の取り組みを行っているとのことで、協同に向けた交流が始まった。

オンラインで2回の会議を行い、10月に行われる「ワールドフェスタ」（主催：長野市国際室）でエコバッグ配布の予定であったが、イベントが開催未定の順延となった為、参加を断念。来年度の生徒会に活動を託した。

12月に生徒会役員が引き継がれたことをきっかけに、活動をさらにブラッシュアップ。現在、「4つのR」に基づく廃油石鹸の製作販売を行う計画を練っている。

4. 活動の成果



盲学校とのオンライン交流の様子

活動の場であったワールドフェスタが順延、不参加となったこともあり、大きな成果物を残すことができなかったという反省が残った。

一方で、点字用紙に目を付けた生徒会長のアイデアが発展し、盲学校との交流を生んだことは、ものごとのつながりや広がりを実感する出来事であった。学校外の他者の視点が入ることで、広く社会を捉える視点が育ったのではないかとと思われる。

また、生徒会の新役員がこれまでの活動を俯瞰し、新しい活動を生み出すことにも繋がった。2年間にわたり、批判的視点や計画性、協働性に目配りさせてきたことが生き、生徒が主体的に活動のアイデアを表明し、計画を進行させようとする力になりつつあることを感じる。生徒会を自治組織として機能させ、主体的に行動できる一人一人を育てていく基盤になっていくことを期待している。

5. 指導方法・体制の工夫

生徒には、常に批判的な思考をするよう促し、自ら思考を深める習慣づけをした。(コットンのエコバッグや廃油石鹸は本当に環境によいのか、レジ袋の海洋汚染はプラごみ全体の何%か、原材料の生産過程で環境負荷が高いものはないか、など)

協力者：長野盲学校
長野市 商工観光部 観光振興課 インバウンド・国際室